

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4565254号
(P4565254)

(45) 発行日 平成22年10月20日 (2010.10.20)

(24) 登録日 平成22年8月13日 (2010.8.13)

(51) Int.Cl.

A 4 7 G 7/02 (2006.01)

F 1

A 4 7 G 7/02

A

請求項の数 4 (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2007-177559 (P2007-177559)
 (22) 出願日 平成19年7月5日 (2007.7.5)
 (65) 公開番号 特開2009-11605 (P2009-11605A)
 (43) 公開日 平成21年1月22日 (2009.1.22)
 審査請求日 平成19年7月5日 (2007.7.5)

(73) 特許権者 307022103
 峯岸 昌志
 東京都渋谷区神宮前4-22-3-102
 (74) 代理人 100070323
 弁理士 中畑 孝
 (72) 発明者 峯岸 昌志
 東京都渋谷区神宮前4-22-3-102
 審査官 高島 壮基

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 運搬用花器ホルダー

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

上下に間隔を置き対面して配置された第一プレートと第二プレートを備え、該第一プレートに第一花器嵌挿孔を貫設し、第二プレートに第二花器嵌挿孔を貫設し、上記第一花器嵌挿孔と第二花器嵌挿孔とを平面方向に位置をずらして配置し、第一花器嵌挿孔に嵌挿した花器の底面を上記第二花器嵌挿孔周域の第二プレート部分で支持し、第二花器嵌挿孔に嵌挿した花器の底面を上記第一花器嵌挿孔周域の第一プレート部分で支持する構成を有することを特徴とする運搬用花器ホルダー。

【請求項 2】

上記第一花器嵌挿孔と第二花器嵌挿孔とは直径が異なることを特徴とする請求項 1 記載の運搬用花器ホルダー。

【請求項 3】

上記第一プレートと第二プレートの対向する二辺又は四辺を側板で連結し間隔を設定する構成としたことを特徴とする請求項 1 記載の運搬用花器ホルダー。

【請求項 4】

上記側板は第一プレート（又は第二プレート）に屈撓可能なヒンジを介して一体に連結すると共に、第二プレート（又は第一プレート）に留め具を介して係脱可能に連結した構成を有することを特徴とする請求項 3 記載の運搬用花器ホルダー。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

10

20

【 0 0 0 1 】

本発明は生花、造花等を活けた花器の運搬に使用する花器ホルダーに関する。

【 背景技術 】

【 0 0 0 2 】

図 1 に示すように、上板 1 に同径のカップ嵌挿孔 2 を複数貫設し、該各カップ嵌挿孔 2 に嵌挿したドリンクカップ 3 の底面を上記上板 1 と対面配置した底板 4 で支持する構成のテイクアウト用のドリンクホルダーが既知である。

【 0 0 0 3 】

上記上板 1 に貫設したカップ嵌挿孔 2 にはその内壁に複数の突片 5 を打ち抜き形成し、該突片 5 をドリンクカップ 3 の周面で下方へ押し曲げつつカップ嵌挿孔 2 内に同カップ 3 を嵌挿し、突片 5 でカップ 3 の胴部周面を遊び無く保持するようにしている。

10

【 0 0 0 4 】

上記ドリンクホルダーは同じサイズの汎用のカップ 3 を保持するテイクアウト用ドリンクホルダーとして多用されている。

【 発明の開示 】

【 発明が解決しようとする課題 】

【 0 0 0 5 】

上記ドリンクホルダーは上板にドリンクカップ嵌挿機能を持たせ、底板にカップ荷受け機能を持たせる構成のものであるが、本発明は対面して配置した二枚のプレート（従来例の上板と底板に相当する二枚のプレート）の夫々に花器嵌挿機能を持たせると共に、同二枚のプレートの夫々に一方のプレートに嵌挿された花器の支持機能を持たせ、花卉販売店、フラワーアレンジメントスクール等から各種サイズの花器をテイクアウトする際に有用な運搬用花器ホルダーを提供することを目的とする。

20

【 課題を解決するための手段 】

【 0 0 0 6 】

本発明に係る運搬用花器ホルダーは、上下に間隔を置き対面して配置された第一プレートと第二プレートを備え、該第一プレートに第一花器嵌挿孔を貫設すると共に、第二プレートに第二花器嵌挿孔を貫設し、上記第一花器嵌挿孔と第二花器嵌挿孔とを平面方向に位置をずらして配置し、第一プレートを上位に第二プレートを下位にして第一花器嵌挿孔に花器を嵌挿し、該花器の底面を上記第二花器嵌挿孔周域の第二プレート部分で支持する構成を有し、又第二プレートを上位に第一プレートを下位にして第二花器嵌挿孔に花器を嵌挿し、該花器の底面を上記第一花器嵌挿孔周域の第一プレート部分で支持する構成を有する。

30

【 0 0 0 7 】

適例として、上記第一、第二プレートには相対的に径の異なる花器嵌挿孔を貫設して置き、テイクアウトする花器の径に応じ、第一プレート又は第二プレートを上位にして（天地を逆転して）第一花器嵌挿孔又は第二花器嵌挿孔に選択的に上記径の異なる花器を嵌挿し、第一花器嵌挿孔に嵌挿した花器の底面を下位の第二花器嵌挿孔周域の第二プレート部分で支持し、又は第二嵌挿孔に嵌挿した花器の底面を上記第一花器嵌挿孔周域の第一プレート部分で支持する構成にする。

40

【 0 0 0 8 】

上記第一プレートと第二プレートはその対向する二辺又は四辺を側板で連結し間隔を設定する。

【 0 0 0 9 】

上記側板は第二プレート又は第一プレートに屈撓可能なヒンジを介して一体に連結すると共に第一プレート又は第二プレートに留め具を介して係脱可能に連結し、上記屈撓可能なヒンジを介して第一、第二プレートを重ね合わせるように扁平に折り畳むことができるようにすると共に、上記留め具を解除することにより第一、第二プレートと側板を平面に展開できるようにする。

【 発明の効果 】

50

【 0 0 1 0 】

本発明によれば、第一プレートに設けた第一花器嵌挿孔に花器を嵌挿して第二プレートに支持する使用形態と、運搬用花器ホルダーを反転して第二プレートに設けた第二花器嵌挿孔に花器を嵌挿して第一プレートに支持する使用形態を採ることができ、対面して配置した二枚のプレートの各々に花器嵌挿機能を持たせると共に、同二枚のプレートの各々に一方のプレートに嵌挿された花器の支持機能を持たせることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 1 1 】

以下本発明を実施するための最良の形態を図 2 乃至図 7 に基づき説明する。

【 0 0 1 2 】

図 2 乃至図 7 に示す運搬用花器ホルダーは、上下に間隔を置き対面して配置された方形の第一プレート 6 と同第二プレート 7 を備え、該第一プレート 6 に円形の第一花器嵌挿孔 8 を貫設すると共に、第二プレート 7 に円形の第二花器嵌挿孔 9 を貫設し、上記第一花器嵌挿孔 8 と第二花器嵌挿孔 9 とを平面方向に互いに位置をずらして配置し、第一プレート 6 を上位に第二プレート 7 を下位にして第一花器嵌挿孔 8 に花器 10 を嵌挿し、該花器 10 の底面 11 を上記第二花器嵌挿孔 9 周域の第二プレート部分 13 で支持する構成を有し、又第二プレート 7 を上位に第一プレート 6 を下位にして第二花器嵌挿孔 9 に花器 10 を嵌挿し、該花器 10 の底面 11 を上記第一花器嵌挿孔 8 周域の第一プレート部分 12 で支持する基本構成を有する。

【 0 0 1 3 】

図 2 乃至図 4 は上記基本構成に基づく具体例を示しており、同図に示すように、上記第一、第二プレート 6, 7 には相対的に径の異なる花器嵌挿孔 8, 9 を貫設して置く。

【 0 0 1 4 】

即ち第一プレート 6 には第二花器嵌挿孔 9 よりも小径の第一花器嵌挿孔 8 を単数又は複数貫設し、第二プレート 7 には第一花器嵌挿孔 8 よりも大径の第二花器嵌挿孔 9 を単数又は複数貫設する。

【 0 0 1 5 】

上記第一花器嵌挿孔 8 と第二花器嵌挿孔 9 とは互いに平面方向に位置をずらして（芯をずらして）配置する。よって図 2, 図 3 に示すように、下位の第二プレート 7 の第二花器嵌挿孔 9 周域の第二プレート部分 13 で、上位の第一プレート 6 の上記第一花器嵌挿孔 8 に嵌挿した花器 10 の底面 11 を支持する、花器支持部を構成する。

【 0 0 1 6 】

又図 4 に示すように、上記花器嵌挿孔 8, 9 を位置をずらして配置することによって、下位の第一プレート 6 の第一花器嵌挿孔 8 周域の第一プレート部分 12 で、上位の第二プレート 7 の第二花器嵌挿孔 9 に嵌挿した花器 10 の底面 11 を支持する、花器支持部を構成する。

【 0 0 1 7 】

図示の例においては、第一プレート 6 の左半分に大径の花器嵌挿孔 8 を、同右半分に小径の花器嵌挿孔 8 を貫設し、又第二プレート 7 の中央部に上記 2 個の花器嵌挿孔 8 よりも更に大径の花器嵌挿孔 9 を貫設している。

【 0 0 1 8 】

換言すると、図示の例においては第一プレート 6 に複数の花器嵌挿孔 8（小径と大径の嵌挿孔）を貫設し、第二プレート 7 には上記花器嵌挿孔 8 よりも大径の単数の花器嵌挿孔 9 を貫設し、一方の花器嵌挿孔 8 に嵌挿した花器 10 の底面 11 を花器嵌挿孔 9 の一侧の第二プレート部分 13 で支持する花器支持部を構成し、他方の花器嵌挿孔 8 に嵌挿した花器 10 の底面 11 を花器嵌挿孔 9 の他側の第二プレート部分 13 で支持する花器支持部を構成し、逆に花器嵌挿孔 9 に嵌挿した花器 10 の底面 11 を 2 個の花器嵌挿孔 8 の間の第一プレート部分 12 で支持する花器支持部を構成した例を示している。

【 0 0 1 9 】

以上の通り、テイクアウトする花器 10 の径に応じ、第一プレート 6 又は第二プレート

10

20

30

40

50

7を上位にして(天地を逆転して)第一花器嵌挿孔8又は第二花器嵌挿孔9に選択的に上記径の異なる花器10を嵌挿し、第一花器嵌挿孔8に嵌挿した花器10の底面11を下位の第二花器嵌挿孔9周域の第二プレート部分13で支持し、又は第二花器嵌挿孔9に嵌挿した花器10の底面11を上記第一花器嵌挿孔8周域の第一プレート部分12で支持する構成にする。

【0020】

上記第一、第二花器嵌挿孔8,9の内域には孔内周面から中心部に向け多数の割シート片18を突設する。各割シート片18は花器嵌挿孔8,9の内域で互いに分離されて花器嵌挿孔8,9中心部に集中して花器嵌挿孔8,9を略閉塞し、外周域で互いに連結される。

10

【0021】

上記各割シート片18を分離する割は花器嵌挿孔8,9の内周面に達しない長さにし、即ち花器嵌挿孔8,9と小径の同芯円において終端するように割を入れ、各割シート片18の基部に花器嵌挿孔8,9の内周面から環状に張り出す連結部18aを形成する。

【0022】

具体例として方形のシートを用い、該方形シートの花器嵌挿孔8,9と対応する円形面域に該円形面域の中心部から放射状に割を入れ、円形面域内に三角形の多数の割シート片18を形成し、図3,図4に実線示するように、該方形のシートを方形の第一、第二プレート6,7の内表面に裏張りして上記割シート片18を花器嵌挿孔8,9の開口面内に配置し、花器嵌挿孔8,9の内周域に上記連結部18aを配置する。

20

【0023】

又は図3,図4に破線で示すように、上記方形のシートを第一、第二プレート6,7の外表面に表張りし、上記割シート片18を花器嵌挿孔8,9の開口面内に配置し、花器嵌挿孔8,9の内周域に上記連結部18aを配置する。

【0024】

上記割シート片18の先端(頂部)は花器嵌挿孔8,9の中心部において垂れ下がるが、該垂れ下がり部を除いた基部側においては花器嵌挿孔8,9の開口面に略水平に延び、同開口面を略閉塞している。

【0025】

上記割シート片18に代え、曲げ可能な多数の突片を花器嵌挿孔8,9の内周面から孔径を制限するように突出させることができる。

30

【0026】

花器10は上記割シート片18及び突片を内方へ押し込み変形させながら花器嵌挿孔8,9内に挿入され、花器10の胴部外周面に加圧当接する。

【0027】

図2乃至図4に示すように、上記第一プレート6と第二プレート7はその対向する四辺を4枚の方形の側板14で連結し、又は同対向する二辺を2枚の方形の側板14で連結し、第一、第二プレート6,7の間隔を保持する。

【0028】

上記側板14は第二プレート7に屈撓可能なヒンジ16を介して一体に連結すると共に、第一プレート6に留め具17を介して係脱可能に連結し、図5に示すように、上記屈撓可能なヒンジ16を介して第一、第二プレート6,7を重ね合わせるように扁平に折り畳むことができるようにすると共に、図6に示すように、上記留め具17を解除することにより第一、第二プレート6,7と側板14を平面に展開できるようにする。

40

【0029】

図示の詳例に従い更に説明すると、前後左右の4枚の側板14を設ける場合、対向する2枚の側板14中の1枚を第一プレート6と第二プレート7の双方に屈撓可能なヒンジ16を介して連結し、他の3枚の側板14は一辺を第一プレート6(又は第二プレート7)に同ヒンジ16を介して連結し、他辺を第二プレート7(又は第一プレート6)に留め具17を介して係脱可能に連結する。

50

【0030】

又図示は省略するが、対向する前後2枚の側板14、又は同左右2枚の側板14を設ける場合、一方の側板14を第一プレート6と第二プレート7の双方に屈撓可能なヒンジ16を介して連結し、他方の側板14は一边を第一プレート6（又は第二プレート7）にヒンジ16を介して連結し、他辺を第二プレート7（又は第一プレート6）に留め具17を介して係脱可能に連結する。

【0031】

上記ヒンジ16の具体例として、柔軟な細長テープ16aの一方の長手辺を第二プレート7又は第一プレート6に縫着等して連結し、同他方の長手辺を第一プレート6又は第二プレート7に縫着等して連結し、該細長テープ16aを屈撓しながら側板14を伏倒できるようにする。

10

【0032】

又上記留め具17の具体例として、第一プレート6の対向する四辺又は同二辺にタブ17aの一端を係脱不可に連結し、該タブ17aの他端と側板14とを雌雄ホック17b又はマジックテープ（登録商標）等の係止手段を介して係脱可に連結し、該雌雄ホック17bを係脱することにより側板14を第一プレート6に連結又は連結解除できるようにする。

【0033】

又は第二プレート7の対向する四辺又は同二辺にタブ17aの一端を取り付け、該タブ17aの他端と側板14とを雌雄ホック17bを取り付け、該雌雄ホック17bを係脱することにより側板14を第二プレート7に連結又は連結解除できるようにする。

20

【0034】

上記タブ17aに代表される留め具17は図示のように、第一プレート6又は第二プレート7の内表面と側板14の内表面において連結し、係脱可能にする。

【0035】

又は図3、図4に破線で示すように、上記とは反対に上記タブ17aに代表される留め具17を第一プレート6又は第二プレート7の外表面と側板14の外表面において連結し、係脱可能にすることができる。

【0036】

図5A、Bに示すように、4枚の側板14を設けた場合には、対向する二側板14の留め具17を解除して該側板14を第一、第二プレート6、7間へ伏倒させつつ、他の対向する二側板14を第一、第二プレート6、7の平面方向へ伏倒させて扁平に折り畳むことができる。又対向する2枚の側板14を設けた場合にも同様に側板14を伏倒させつつ扁平に折り畳むことができる。

30

【0037】

又図6に示すように、全ての留め具17による連結を解除することにより、第一、第二プレート6、7と側板14とをヒンジ16を介して連結しつつ、平面に展開可能な構成とする。

【0038】

上記運搬用花器ホルダーは花器10を嵌挿した状態で、図7に示すように、直方体形状に変形可能なバッグ19の中に収納し、該バッグ19の開口部に設けた手提げ20を以って運搬を行う。

40

【図面の簡単な説明】

【0039】

【図1】従来のカップホルダーを例示する斜視図。

【図2】Aは本発明に係る運搬用花器ホルダーの斜視図、Bは該花器ホルダーを反転した状態を示す斜視図。

【図3】図2AにおけるA-A線断面図。

【図4】図2BにおけるA-A線断面図。

【図5】Aは運搬用花器ホルダーを扁平に折り畳んだ状態を図2AのA-A線断面を以つ

50

て示す図、Bは同花器ホルダーを扁平に折り畳んだ状態を図2AのB-B線断面を以って示す図。

【図6】運搬用花器ホルダーの展開状態を示す平面図。

【図7】運搬用花器ホルダーをバッグに収納した状態を示す断面図。

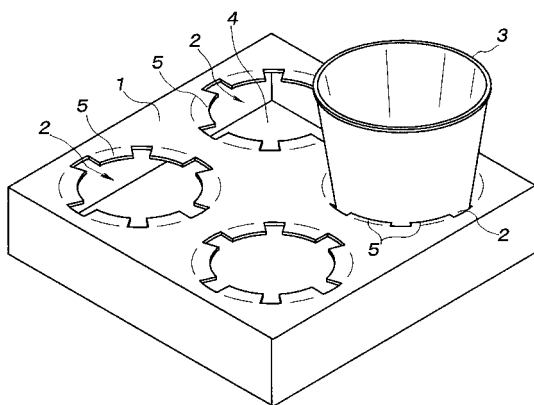
【符号の説明】

【0040】

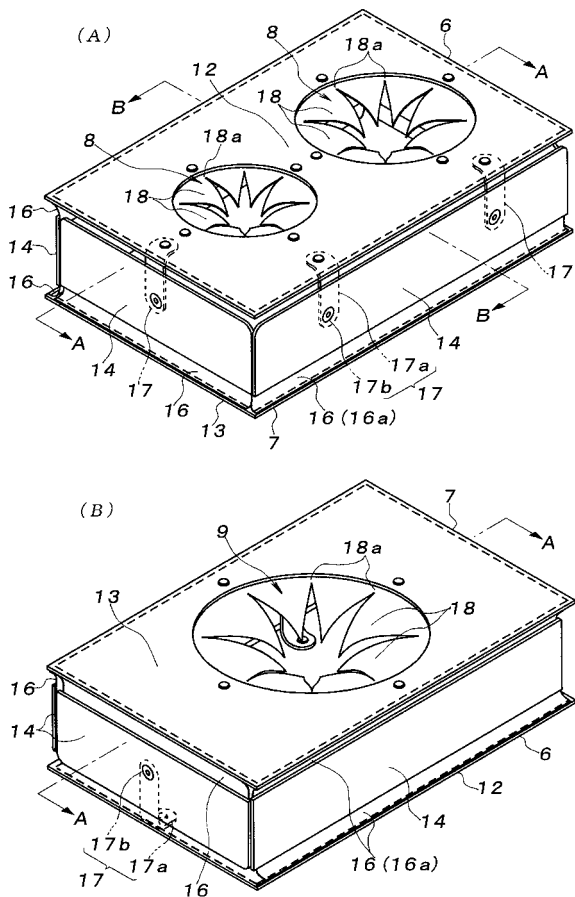
6...第一プレート、7...第二プレート、8...第一花器嵌挿孔、9...第二花器嵌挿孔、10...花器、11...花器の底面、12...第一プレート部分、13...第二プレート部分、14...側板、16...ヒンジ、16a...細長テープ、17...留め具、17a...タブ、17b...雌雄ホック、18...割シート片、18a...連結部、19...バッグ、20...手提げ。

10

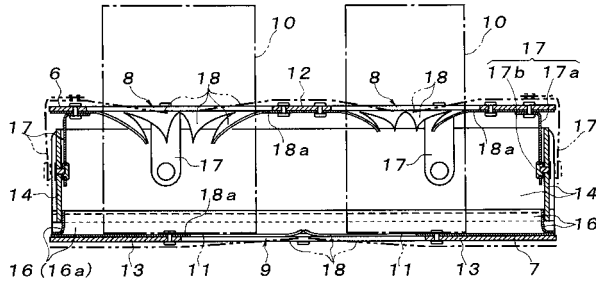
【図1】



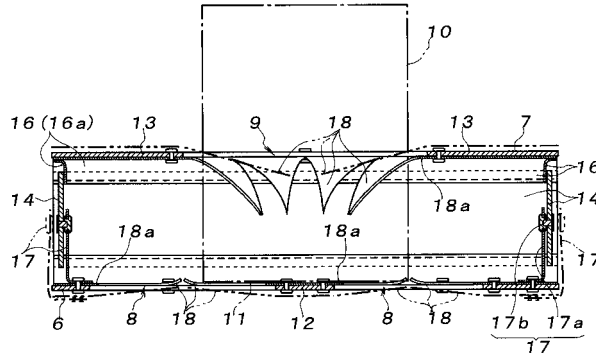
【図2】



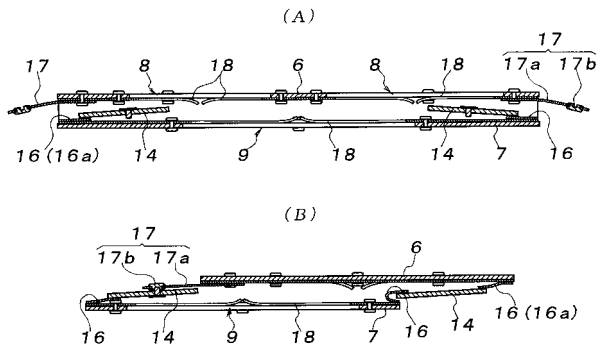
【図 3】



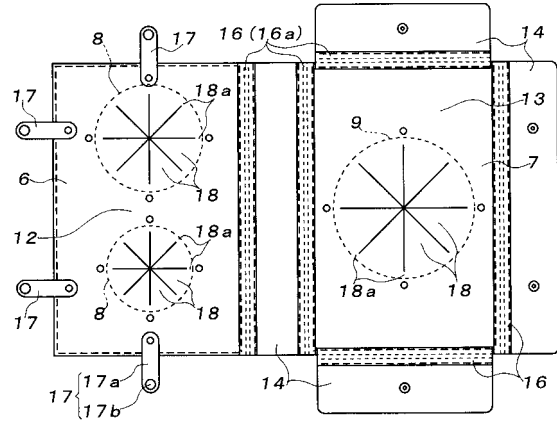
【図 4】



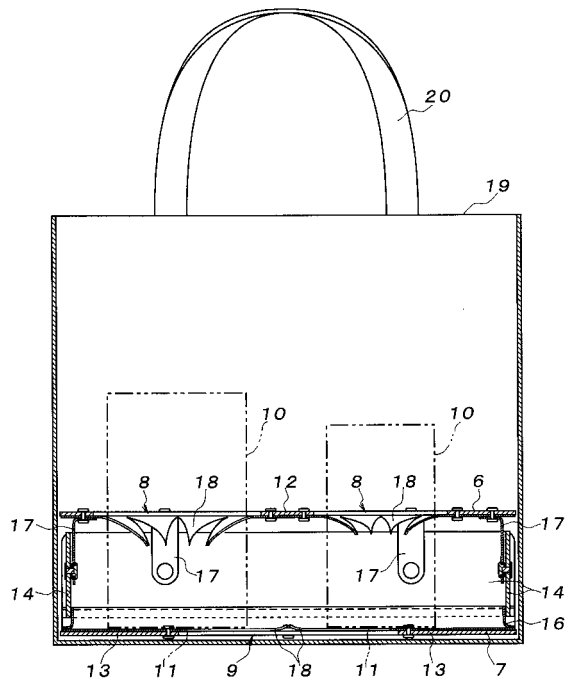
【図 5】



【図 6】



【図 7】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開 2 0 0 2 - 2 8 4 2 2 8 (J P , A)
登録実用新案第 3 0 0 5 9 9 4 (J P , U)
特開 2 0 0 1 - 1 6 9 9 0 (J P , A)
登録実用新案第 3 1 2 7 6 0 2 (J P , U)
登録実用新案第 3 1 3 3 6 1 3 (J P , U)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

A 4 7 G 7 / 0 2 - 7 / 0 8
 2 3 / 0 2
B 6 5 D 5 / 0 0 - 5 / 7 6